



交通安全優良運転者表彰



当別町交通安全推進委員会では、昨年度より、自他共に認める模範的安全運転者、交通マナーの実践者をみんなの目線で選び、これまでに50名の方が表彰を受けています。同委員会会長を務める泉亭町長から「この表彰状は床の間ではなく一番目立つところに飾り、皆が欲しがるところにつなげましょう。」と激励されました。

(4月15日)

進む少子化に歯止めを



進む少子化について深く考え、これからのまちづくりに活かそうと、当別町少子化対策検討会議(辻野浩座長)が、その検討結果を町長に提言書として提出しました。

会議は昨年秋から8回にわたって開催され、少子化の現状と課題の分析から、今後の方向性について議論が行われ、私たちが考えている以上に少子化の進行が早く、多角的な対策の必要性と、そのための専門部署の設置を求める内容となっています。町では提言書を受けて、早急な対策の検討に乗り出すとしています。

(3月23日)

太美保育所入所式



町立の太美保育所が民営化されて初の入所式が行われました。

この日の入所は74名で、進級した園児61名が、新しいお友達の13名を、歌と踊りで歓迎しました。

これから園を運営していく社会福祉法人高陽福祉会の前田理事長からは「しっかりした心づくり、体づくりを行い、健康で善悪のわかる子どもに育てたい。」と抱負が述べられ、明石父母会長からも、「民営になってもこれまでと変わらず、園の運営に協力します。」と挨拶がありました。

(4月1日)

広 告

白鳥が飛ぶ中央フライウェイ



春の使者、白鳥が今年も大群を率いて本町を通過しました。

渡り鳥の白鳥はシベリアや北米大陸のツンドラ地域に生息しますが冬の間は約 4,000km を南下して本州で越冬します。この飛行ルートは北海道を通過し、石狩平野を縦断する「中央フライウェイ」と十勝、根室を縦断する「東部フライウェイ」とがあります。本町は中央フライウェイの西端にあたりこのルートはマガン、コハクチョウが飛んでいます。雪解けの水田で虫や落ち穂をついばみ、更に旅を続けます。

(4月14日)

集まる義援金



大崎市への復興の願いを込めた義援金が集まっています。

この取組みは町内会をはじめ、職場、学校、各種団体で広がりを見せ、姉妹都市大崎市への関心も高まっています。

この日は、当別ミニバスケットボール少年団の白金悠君、久保田なつきさんが代表して義援金を役場に届けました。フリースロー1回につき200円を募金し、シュートが入ると景品として少年団活動を記録した特製DVDが貰えたり、バスケットボールのグッズ販売をして募ったものです。

(4月18日)



広 告